

巻 頭 言

本誌「生存圏研究」は2006年に第1号が、その後、毎年度1冊ずつ発刊され、今回第17号の発刊となりました。生存圏研究所の理念を発信する重要な出版物として継続的に発刊されている和文誌ですが、研究所全般の広報活動を見直す一環として、今般、雑誌の性格を少し変更させていただくことになりました。これまで研究所の英文誌としては“Sustainable Humanosphere”という雑誌がありましたが、生存圏科学に関わる研究成果を残してゆく場として、和文誌・欧文誌というカテゴリーを超えて「生存圏研究」に一本化し、日本語・英語どちらでも寄稿していただけるようにしました。

生存圏研究所は平成16年(2004)に旧・木質科学研究所と旧・宙空電波科学研究センターを結合再編して設立された研究所です。現在の地球社会には人類の生存を脅かすさまざまな事象が発生しており、ある専門分野における学問の深化のみでは解決できない複合的な性格を持っています。その解決にあたっては、学際的な視点を持ちながらさまざまな分野の専門的な知識を統合してゆく必要があるとの認識から設立された研究所です。平成17年(2005)大学附置全国共同利用研究所として活動を開始し、活動が次第に本格化してきた2006年に本誌「生存圏研究」の第1号が発行されました。

この「生存圏研究」には前身があつて、「木材研究・資料」(Wood research and technical notes)が旧木質科学研究所時代から(さらには木材研究所時代から)発刊されており、ほぼ年1冊のペースで刊行されてきました。その最終号は39号(2003)で、生存圏研究所の発足直前まで発刊されており、その流れを受けて和文誌である「生存圏研究」が刊行されました。先に述べましたように、研究所の刊行物についていくつかの見直しがおこなわれましたが、私たちはこの歴史の重さを踏まえて「生存圏研究」を継続して刊行することとしています。

生存圏研究所では、これからもわれわれが直面するさまざまな問題に対して包括的な視点に立った解決策を提示することを目指し、研究成果が私たち人類の生活する生存圏の持続性に寄与すること、すなわち持続発展可能な社会の構築に向けて、わたしたちが向かうべき方向性を指し示すことができるように取り組んでいきたいと考えています。その一助として本誌「生存圏研究」が広く講読され、研究者のみならず一般の方々にも手に取っていただけるようになることを期待して、巻頭言とさせていただきます。

令和3年9月3日

生存圏研究所
所長 塩谷雅人